

協働事業評価書

事業名「市民緑地「大坂ふれあいの森」の保全と活用」

事業主体：白子大坂ふれあいの森の会

担当課：都市整備課

評価者：協働推進懇話会（委員8名）

評価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価 【◎○△】	評価内容	評価 【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 6人 ○ 2人 △ 0人	事業スケジュール	◎ 2人 ○ 6人 △ 0人	<ul style="list-style-type: none"> ■とても細かいスケジュールを立て、環境を媒介に市民、行政を巻き込んだ事業は評価ができる。 ■定期的な保全活動とフォーラム等の事業を効果的に組み合わせながら事業が展開されてきた点を評価する。 ■「カワモズク」の生育環境が確立したことで、「大坂ふれあいの森」の存在価値が向上した。 ■ガイドマップの作成は、地域のみならず市民全体への貴重な投げかけであり、地域の活性化に役立っている。また、大学の研究対象となっており、先進的事例となるのではないかと。 ■保全活動と、学習活動・ガイドマップづくりがバランスよく行なわれた。 ■ガイドマップやQRコード等、活動を視覚化（見える化）することで、より市民への啓発に繋がっている。 ■まだ一般的でないQRコードの活用など、新たな試みを実施したり、近隣住民との交流が増えたりしていることを評価する。 ■保全・活用が行き届いたおかげで、ゴミの不法投棄がなくなり、苦情がゼロになったのは素晴らしい。
		事業成果	◎ 6人 ○ 2人 △ 0人	
②協働の評価	◎ 1人 ○ 7人 △ 0人	プロセスの積み重ね	◎ 2人 ○ 6人 △ 0人	<ul style="list-style-type: none"> ■市との協働に関しては、活動を団体に委ねながらも、相互の関係性、連携がうまく保たれていると感じた。 ■市内イベント等に参加し、活動を外部に積極的に発信する姿勢は評価できる。 ■周辺地域住民の理解が深まっていると感じた。 ■小学校との協力関係が形成されたことは、地域への広がり面で高く評価する。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ガイドマップの活用法と配布先については、事前に双方できちんと話し合いを持つべきであったと思われる。 ■協働事業により利活用の場が広がった成果を今後も継続させるための工夫が必要。特に資金面以外での市の関わり方について、方策を考えていく必要がある。 ■市民満足度を客観的に把握できる方法があるとなお良い。
		事業の広がり	◎ 3人 ○ 5人 △ 0人	
		市民満足度の向上	◎ 2人 ○ 5人 △ 1人	
		協働基本原則	◎ 1人 ○ 7人 △ 0人	
		協働の成果	◎ 2人 ○ 5人 △ 1人	
③総合評価				<ul style="list-style-type: none"> ■団体と地域や受益者とのふれあいが増加し、新たなコミュニティが形成されていく状況は、他のモデルとなりうる。 ■世代を超えて緑に触れ合える環境づくりは、心を育てる活動に繋がる。市民団体との協働事業実施によりいろいろな可能性が生まれてくる。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■単年度事業では無く、継続的な事業とする必要があると感じる。 ■市民参加型の協働事業モデルともいえるべき事業で、事業継続には市民のボランティアな関わりが欠かせない体制となっている。ふれあいの森について、市として政策的な位置づけを明確化したうえで、メンバーの負担を考慮した団体との協力体制を再考すべき。 ■今後とも、ふれあいの森が開発されないよう、都市計画画面での対応を望む。 ■ガイドマップは大人向けと思われるため、小学生向けの資料が別途作成されることが望ましい。 ■「イチリンソウ」等の貴重な植物があることを更にPRしてはどうか。
上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				